

## 我が町あれこれ情報★

### ◇郷地・東町むかしむかし (6)

#### 【立川飛行場と横田飛行場の話(前編)】

今回はなぜ立川に飛行場を作る計画が持ち上がったのか？そして立川飛行場からわずか6kmと考えられないほど近くに横田飛行場を作ったのか、その訳を探ってみましょう。

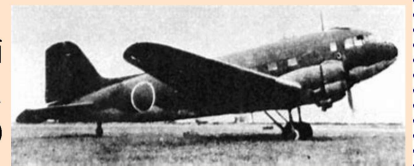
今は昭和記念公園として親しまれている場所に立川飛行場の計画が持ち上がったのは大正の中頃でした。第一次世界大戦(1914年・大正3年)で初めて戦争に航空機が登場し、世界の列強国は航空機の軍事力を痛感しました。日本もまた同じ思いで、急遽、首都防衛のための飛行場用地の選定に取り掛かりました。立川、霞ヶ浦、習志野が候補地となりましたが、決定要件としては首都中枢に近いことに加え、東京都心から飛行場まで既存の輸送網がしっかりしていることなどから立川が選ばれ、極秘裏に三菱を中心に用地買収が行なわれました。しかし買収の趣旨は、東京の人口急増に対処するための食糧供給基地としての養豚場・養鶏場整備を旗印として行なわれ、用地買収がほぼ完了した頃に『帝都防衛構想』が打ち出され、立川が正式に候補となりました。

立川飛行場は1922年(大正11年)軍民共同利用として開設され、当初は民間機が定期便として立川～大阪間を3時間かけてフライトしてい

ました。昭和8年に羽田空港が開設されると間もなく、民間機は羽田に移行し、立川は陸軍専用飛行場となりました。

岐阜県の各務原(かかみがはら)から立川への航空大隊の移動に続き、航空技術研究所・航空工廠(工場)など軍の施設も大挙移設してきて一大軍事拠点となりました。施設の規模拡大に伴って飛行場が手狭になり、昭和15年に立川飛行場付属「多摩飛行場」として現在の横田飛行場を開設しました。

その少し前に三井が現在の昭島駅の北側の広大な土地(現在のモリタウン・昭和の森GC・つつじが丘団地・昭和館など)を取得し、航空機製造会社(現在の昭和飛行機工業の前身・昭和12年設立)を作り、ダグラスDC3型輸送機(写真右)のライセンス生産をめざしました。国産化に成功すると、これが海軍に採用され『零式輸送機』(写真右)として終戦までに430機製造されたとのこ



とです。この昭和飛行機の工場も敷地内に滑走路があり、製作機の試験飛行が出来る規模で、更に横田に滑走路ができるという過密状態のありさまでした。(東町・福田 晃)

## 稲和会で2年ぶりにお神輿が出動!

(11月23日・郷地稲荷神社新嘗祭にて)



神事の後境内でマスクをして間隔を空けながら交替でお神輿を担ぐ皆さんの嬉しそうな顔が印象的でした。早くコロナが終息してほしいですね!

## ～地域住民交流の場～ サロン活動情報!

### ◆昭島団地自治会館で久々に「あおぞら奇席」を開催!

コロナがようやく下火になったので、5年前から「あおぞらサロン」を始め、19回目となる「あおぞら奇席」を、11月21日、久しぶりに開催しました。今回は地元落語家の桂笹丸さん(写真左)と、後輩の桂空治さんの熱演で、



会場を明るい笑い声で満たして頂きました。次回は2月20日に開催予定です。尚この他にも昭島団地自治会館では麻雀や囲碁・将棋などのサロンを定期的で開催しています。地域や自治会等の枠を越えて、どなたでも参加できますので、お気軽においで下さい。

◆詳細お問い合わせは、  
080-5185-0444 清水和子まで